

英国サンダーランド大学における 日本語教育の現状

奥村 圭子

1. 機関について

サンダーランド大学は、北イングランドに位置し、1991年政府の方針により元来実践教育中心であったポリテクニクからユニバーシティと改称され、リサーチにも重きをおいた総合大学となり今日に至っている。

1986年の日産自動車サンダーランド工場の公式操業開始当時、当大学は北イングランドにおいて日本企業の投資の増加にともなって生まれる教育的、またはビジネス関係の需要に応えるため、地方自治体からの要請もあって、日本人コミュニティと地域を結ぶチャンネルとして日本研究科を創立した。

2. 日本語教育

日本研究科創立の年より成人教育としての日本語教育は行われていたが、それに加え1992年社会・国際学部の傘下となったと同時に、日本語を選択科目のモジュールとして学部生に紹介する計画が進められ、1993/4年に初級、1994/5年に準中級が設けられ、1995/6年三年目のコースが新しく設置予定である。学部生の専攻は自然科学分野、社会科学分野、人文科学分野と多岐にわたっているが、今年は就職時に有利になるようにしたいという目的で履修する工学、経営学専攻の学生が増加した。これらのコースには学外からの受講希望も多いため、学外の学生も準学生として受け入れている。また、以前からの成人教育のコースも中級と上級共に続行している。

1994/5年の学生数は下記の通りである。 総数 (準学生)

| コース | 初級 | 準中級 | 中級 | 上級 |
|-----|--------|--------|-------|-------|
| 学生数 | 23 (9) | 16 (5) | 6 (6) | 4 (4) |

現在、日本研究科スタッフは2名、事務担当1名と教務1名で、日本語教育はこの教務担当の専任講師によって行われている。

3. 授業報告 (1994/5)

a) 時間数 (contact hours)

初級/準中級 3hs×25=75hs

中級/上級 13/4hs×30=52 1/2hs

b) 使用教材

初級 主教材 : Japanese for Busy People (講談社インターナショナル)
副・補助教材 : 24Tasks for Basic Modern Japanese (ジャパントイムズ)
ヤンさんと日本の人々 (ビデオ・ペディック)

| | | | |
|-----|---------|---|--|
| 準中級 | 日本事情 | : | Nippon/The land and its people (Shin-ei Armz inc) |
| | 主教材 | : | Japanese for Everyone (学研) |
| | 副・補助教材: | | 24Tasks for Basic Modern Japanese (ジャパンタイムズ) 文化初級日本語 I (文化外国語専門学校) ヤンさんと日本人々 (ビデオ・ペディック) |
| 中級 | 日本事情 | : | Nippon/The land and its people (Shin-ei Armz inc) |
| | 主教材 | : | Japanese for Busy People II (講談社インターナショナル) |
| | 副・補助教材: | | ヤンさんと日本人々、続ヤンさんと日本人々 (ビデオ・ペディック) 文化初級日本語 I、II (文化外国語専門学校) |
| 上級 | 主教材 | : | Japanese for Busy People II (講談社インターナショナル) 総合日本語 初級から中級へ 総合日本語 中級前期 (凡人社) |
| | 副・補助教材: | | 続ヤンさんと日本人々 (ビデオ・ペディック) 日本を読む (凡人社) |

c) 問題点、今後の課題

モジュールの場合、選択外国語としての一般教養的な日本語にしかならないため、学生の「日本語を自分の専門の研究に役立てたい」、「就職に役立てたい」という要求には不十分である。今後、日本語とある特定の学科を合わせる課程の開発、もしくは通年のコースに加えて夏季集中講座などの設置が望まれる。

また、学外からの準学生をも受け入れて行く以上彼らの多様なニーズにいかに対応して行くか、また学生達に最新の日本の情報をいかに提供して行くかも慎重に考えなければいけない今後の課題であろう。日本に関するいろいろな分野からのゲスト・スピーカーを迎えたり、日本語を母国語とする話者の授業参加・スピーチや日本語衛星放送などの活用も考えて行きたい。